仙台城Now! vol.31

仙台市教育委員会文化財課
令和7年12月5日

仙台城大手門復元基本構想（中間案）を策定しました。

仙台市では、伊達政宗公の没後400年に当たる令和18年に向けて仙台城大手門の復元を進めています。今回の「仙台城Now!」では、現在パブリックコメントを実施中の大手門復元基本構想についてご紹介します。

1 仙台城大手門とは？

仙台城大手門は、江戸時代を通して仙台城全体の正門であり、明治時代から大正時代までは陸軍第二師団司令部の正門として使われていました。

昭和6年（1931）には大手門脇櫓とともに国宝に指定されましたが、昭和20年（1945）に仙台空襲で焼失しました。

ここでは、大手門の整備イメージ図を基に大手門の豆知識を2つご紹介します。

大手門の正面からの整備イメージ図（第1期整備後）

イメージ図をよく見ると…

大手門は、昭和5年に実測調査が行われており、焼失前の姿が詳細に記録されています。これは復元を目指すうえでも重要な資料となります。

構造：木造2階建て、入母屋造、瓦葺
規模：1階　桁行19.7m　梁間6.8m
　　2階　桁行19.7m　梁間7.9m
　　高さ　軒高8.2m　棟高約12.5m

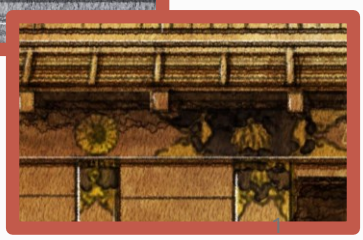
門正面に立つ女性の身長は160cm程度としています。1階の天井だけでもかなりの高さがあります。復元後には、この規模感をぜひ体感していただきたいと思います。

門に施された装飾

正面大梁（おおばり）に漆の下地に金箔を置いた大きな菊花紋・桐紋の彫刻を配するとともに、鉄や青銅製の飾り金具が用いられていました。屋根には鯱瓦（しゃちがわら）が載ります。

これらの菊花紋・桐紋の彫刻や屋根の鯱瓦については明治時代の修復時に設置されたと考えられており、江戸時代にもついていたかどうかは、今後検討が必要です。

←鯱瓦



↑桐紋（左）と菊花紋（右）

2　仙台城大手門基本構想

仙台市では、これまでの調査成果を踏まえ、伊達政宗没後400年を迎える令和18年までの大手門復元を目指すこととし、基本構想を策定することとしました。本構想は、大手門復元に向けて史跡整備の現状・課題を改めて整理するとともに、整備事業の全体像を具体化し、将来の復元整備に向けた対応方針を示すことを目的としています。

仙臺緑彩館から見た大手門の整備イメージ図
（第1期整備後）

大手門下から見た大手門南西エリアの整備イメージ図
（第1期整備後）

概算事業費は？

大手門の建築工事費：概ね15億円程度と見込みます。
※物価上昇などは未反映で、この他にも発掘調査や設計、周辺整備に係る経費等も必要です。

市民や企業の皆さまからの寄附やふるさと納税等の多様な財源確保に取り組むこととし、そのための機運醸成に努めます。

市道仙台城跡線等の道路は？

右図の赤線部分の道路について、主に歩行者用の通路等として整備することを検討します。なお、整備に先立ち、大手門復元事業が本格化する時期（令和12年度頃を想定）までに、当該市道の通行を止める必要があります。

市道の取り扱いや交通への影響の対策については、今後、交通量調査や将来交通シミュレーションなどを実施し、関係機関と協議しながら検討していきます。

車両の通行制限等を想定している区間

基本構想の詳細は HPからご確認ください

パブリックコメント実施中です

1　募集期間
　11月25日（火）～12月24日（水）（必着）

2　意見提出方法
　電子申請、郵送、ファクス、メールなど

※詳細はHPをご確認ください